



渡辺一郎社長

葬の香典数は、最近は何千件を超えるのが珍しくなくなった」と話す。

かつてはタブーだったことになる前の事前相談も急増し、年間250件に上るといふ。同社では無料で事前相談を受け付けており、病院で余命宣告を受けた患者の家族や、「家族に迷惑をかけたくない」という本人から葬儀の準備を依頼されることもある。

同社はサービスの質の向上を図るため、社員の資格取得に力を注ぐ。現在、厚生労働省が認定する葬祭ディレクターは31人で全社員に占める比率は「全国

1908年（明治41年）創業の帯広市内で最も古い葬儀店。市内で葬儀場2カ所を運営し、家族葬から社葬まで対応しているほか、多様化する故人や遺族の要望に応えるため、きめ細やかなサービスをを行っている。

同社が昨年取り扱った葬儀件数は865件で、ここ数年横ばいだが、参列者数は減少傾向だという。羽田野浩利事務は「以前は2、3千あった大規模な社

とがち企業ファイル

⑫

多様な葬儀に対応

＜会社データ＞▽本社 帯広市大通南8の2▽従業員 67人（2013年1月末現在）▽資本金 3000万円▽2012年11月期決算 売上高11億円、経常利益は非公表

でもトップクラス」（同社）。全日本葬祭業協同組合連合会の事前相談員も5人が取得し、今後増やしていく方針だ。

また、悲しみに暮れる遺族の心のサポートも充実させようと、「日本グリーンケア協会」から4人がアドバイザーの認定を受けた。

新しい施設の整備も進め、4月上旬には市内西23南1に3カ所目の葬儀場がオープンする。154人収容のメモリアルホールと50人収容のメモリアル別邸で、いずれも厨房を備え、ビュッフェ形式の温かい食事を提供できるなど、従来のイメージを払拭する葬儀場だ。

今後、超高齢化社会を迎え、管内でも葬儀件数の増加が予想される。羽田野専務は「葬祭業の9割がソフトサービス。遺族の思いにしっかりと耳を傾け、形に表していきたい」と話している。

家族葬から社葬まで対応できる帯広中央斎場

